

## 道立砂川少年自然の家 の改築について

無所属の会

小黒 弘

**問** 道立砂川少年自然の家は道立子どもの国にあり、たくさんの方の少年の宿泊、研修施設として利用されている施設ですが、昭和50年に建設され、老朽化が目立って早期の改築が望まれます。

しかし、財政状況が厳しい北海道は単に老朽化を理由とした改築は難しい状況であると言っています。そんな中、少年自然の家が廃止されるのではないかとの心配もあり、全市的な運動が必要であると思いますが、市長の考えについて伺います。

**答** 北海道が実施した平成21年度政策評価の公共施設評価における知事意見において、少年自然の家などの道立青少年教育施設に関し、「今後の施設のあり方について廃止を含めて早急に検討する」と示しています。

この意見などに対して、北海道教育委員会は「道立青少年教育施設についての基本的な考え方」をまとめ、施設の配置場所や数、管

理運営の体制など、具体的なあり方については、地域とも十分相談し、平成22年度中に一定の方向を出すとのことです。

砂川少年自然の家は6箇所の少年自然の家では最も利用者数が多く、指定管理者である北海道子ども国協会の取り組みにより、利用者は年々増加していますが、老朽化している施設であることからあり方の検討状況を注視し、情報収集を行い、子どもの国協会とも連携をとりながら、状況に応じて必要な対応をしていきます。



道立砂川少年自然の家

## 子宮頸がんの 予防ワクチンについて

公明党

吉浦やす子

**問** 空知管内で「子宮頸がん」の予防ワクチン接種の助成に踏み切る自治体が増えていきます。

子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルスの感染が主な原因とされ、近年20代、30代の女性の死亡が急増しています。

この病気は年間1万5千人が罹り、約3千500人が亡くなっていますが、予防検診とワクチン接種を併用すれば、ほぼ100%予防でき、数多くの命が救われます。しかし接種費用が3回で約5万円かかることから、費用の負担を軽くして欲しいとの声も多くなっています。

女性の健康と命を守るためにも積極的に取り組むべきと思うが、当市の考えを伺います。

**答** 公費助成については実施の方向で検討していきたい。詳細については、これから検討していきます。

**問** 細菌性髄膜炎は国内では、毎年約一千人の子どもが発症し、治療を行っても命にかかわることや深刻な後遺症が残ることも少なくありません。

しかしワクチンによって予防ができます。

子どもたちの命を守るためにも、公費助成を実施すべきと考えますが当市としての考えを伺います。

**答** 公費助成については実施の方向で検討していきたい。詳細については、これから検討していきます。



## ヒブワクチンの公費助成 について

# 次期市長選挙について

公正会  
尾崎 静夫

**問** 菊谷市長は就任以来、市民との対話や協働を中心に、市民の幸せを第一に市政の発展に努力をされていますが、明年4月に迫った統一地方選挙、市長選に、菊谷市長の立起について伺います。

**答** 市長として今、3期12年を終えようとしていますがこの間、市民の皆さんの温かいご支援とご理解を頂き、市議会議員各位のご指導を頂きながら、行政改革を始めとする財政基盤の確立と各種施策に取り組み、緩やかではあります。が、砂川市の発展と市民生活の幸せに貢献できました事は、誠に喜びに耐えないところであります。

今、砂川市の現状を見ると、未だに続く景気の低迷、少子高齢社会の進行、活力の低下など多くの課題を抱えており、今後いかにこれらを克服し、市民が幸せに、そして砂川市が将来に向かつて堅実に歩み続けることができるのか、その基盤を固め、築いて行くことが非常に大切なことであると考

ております。

私は市民が主役、市民との行政情報の共有、市民参加を基本に、心の触れ合う福祉社会や教育の充実、行財政の安定化、農業や各種企業の育成振興、中心市街地の活性化、快適な都市環境の整備などに向けた各種事業を誠心誠意取り組んで参りました。

私は市長として3期12年が一区切りと考えており、来年は第6期総合計画の初年度でもあることから、この際、後進に道を譲りたく考え、来年の統一地方選には立起しない考えであります。



砂川市街

## 全員協議会調査視察

(10月8日に議員全員で新病院を視察しました)



一人用病室(シャワー付タイプ)



臓器移植可能な手術室



屋上ヘリポート



阪神大震災級の地震に耐えられる免震装置



救急処置室



管内初の最新CT